

ブランド力上昇

「千葉工大生が欲しい」



産学懇談会に詰めかけた企業の人事・採用担当者たち



千葉工業大学産学懇談会

業種別では建築・土木、機械、電気、情報・通信などのIT関連が依然として旺盛な採用意欲を見せている。技術営業担当を求める商社、製造ラインに関わる技術者が不足している食品メーカーなどからは「何としてこの企業側の期待に応えるために、本学側も瀬戸熊修理理事長以下の法人役員、小宮一仁学長以下の大学副学長と研究科長・学部長、産官学連携センター運営委員会と就職委員会の委員、さらに各研究科と学部・学科の就職担当教員、就職・進路支援部就職課員らが総力を挙げて企業側の出席者に対応した。

第1部であいさつした小宮学長は、本学はこの春、創立以来最多の7万8457人と日本の大学779校中9番目に多い入学志願者を集めたこと、また一般入試の志願者数は昨年度に比べ2万5607人増と全国の大学のトップに立ったことをアピール。「いま千葉工大のキャンパスは平均競争率5・7倍という厳しい競争を勝ち抜いた学生であり、未来を支える若き技術者であふれている」と話した。

また、第2部の冒頭であいさつに立った瀬戸熊理事長は本学が来春、創立75周年を迎えること、今年度から工学部の改編で「5学部17学科」になったことを報告し、「皆さんはどのような人材が欲しいか、そのために千葉工大にはどのような教育をしてほしいのか、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい」と呼びかけた。

これに対して、企業側を代表して乾杯の音頭を取った八洲電機管理統括本部人事担当部長の湯本則光氏は「千葉工大の

本学が企業と親睦を深め、学生の就職情報を交換し合う今年度の「産学懇談会」が11月2日、ホテルニューオータニ幕張で開催され、過去最多を記録した昨年をさらに54社上回る559社から人事・採用担当者583人が出席した。企業の採用意欲が依然旺盛なことに加えて、本学のブランド力が上昇し、「千葉工大生」に対する期待が高まっていることが背景にある。

産学懇に最多559社

「好奇心が旺盛」企業側エール

こうした企業側の期待に応えるために、本学側も瀬戸熊修理理事長以下の法人役員、小宮一仁学長以下の大学副学長と研究科長・学部長、産官学連携センター運営委員会と就職委員会の委員、さらに各研究科と学部・学科の就職担当教員、就職・進路支援部就職課員らが総力を挙げて企業側の出席者に対応した。

NEWS CIT

2016
11.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<http://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

2面 “数字チョコ” 小田さん優秀賞/石川さんロボ相撲全国大会へ/安生、藤沼、香取さん「銀茶会の茶席」銀賞/渡辺さん学生発表賞

3面 a b a 3賞に輝く/菅研が高温耐久メモリ開発/金子さん養成塾で受賞/中静教授に貢献賞/学位取得者

4面 林原教授が「ロボカップ」講演/STAIR Labが新たな人工知能技術に挑戦/エコメッセに本学6組/好調「シンナライブ」

5面 スポフェス開く/寮大会も接戦/未来人「藤本正雄さん」/空手覇者・根本さん来校

6面 10月オープンキャンパス/クラブの活動状況

来場60万人に



東京スカイツリータウンキャンパス(東京都墨田区押上・東京スカイツリータウン8階)が開設から約4年半の11月7日、来場者数60万人を達成した。

60万人目は埼玉県越谷市から来た小学生の太刀川翼さん(写真左)。太刀川さん親子は学校の振り替え休日を利用してスカイツリーに来て本学ブースに立ち寄ったという。太刀川さん親子は瀬戸熊修理理事長(同右)から記念品を手渡され、係員に導かれて、アトラクションを体感した。エリアIでは魔法のカードや災害対応ロボットを操縦、エリアIIでは太陽系クラウドツアーの説明に聞き入っていた。

レアアース泥開発を推進

本学海洋資源センター参加 **加藤教授が講演**



産学懇談会第1部では東大大学院工学系研究科附属エネルギー・資源フロンティアセンター教授で、今年4月に設立された本学次世代海洋資源研究センター(ORCA)の招聘主席研究員の加藤泰浩氏が「日本の海洋資源政策はどうあるべきか」と題して講演した。

加藤教授の研究グループは2012年に日本の排他的経済水域である南鳥島周辺に世界最高品位の「レアアース泥」が大量に分布していることを明らかにした。この研究を基に、東大、本学の次世代海洋資源研究センターとさまざまな企業が加わって「レアアース泥開発推進コンソーシアム」が結成された。世界初の深海底での鉱物資源開発の実現に向かって活動するとともに、同センターではレアアース泥開発システムの研究を進めている。

学生のイメージは、目がキラキラしていること。これは好奇心が非常に旺盛であることの表れだと思ふ。何事にも興味をもって邁進する学生を育てて頂きたい」とエールを送っていた。

懇談会の中締めは松井孝典常務理事(惑星探査研究センター所長)が行った。

中堅企業など採用は未充足

「産学懇談会」の会場に当選されたホテルニューオータニ幕張の大宴会場「鶴の間」の前には、受付開始時刻の1時間も前から企業側の出席者が集まり始め、名刺交換開始と同時に受付台前には長い列ができた。

このような企業側の過熱さの採用意欲の背景の1つには、中堅・中小企業を中心に2016年春入社、17年春入社と続けて採用数が採用計画数に満たしていない「未充足」状態が、今も続いていることがある。

18年春入社組の就職活動説明会にぜひ参加したい

しかし、「採用未充足」の企業が多く「来年こそ」の思いで、大学との「太いパイプ」の構築に全力を挙げている。懇談会の会場でも就職課の職員に「OB・OG懇談会にはどうしたら参加できるか。参加条件は?」「大学主催の会社説明会にぜひ参加したい」

「就職活動では、自分がチャレンジする相手企業の動向をきちんと把握することがもっとも大切です。そのために自分のアンテナをしっかりと張って準備してください」

数字チョコレート優秀賞

▼小田さん 東京ミッドタウン デザインコンペで

デザインの若い才能を ウンアワード2016 デザインコンペ(東京ミッドタウン)で受賞



展示された小田さんらの作品。下は小田さん(左)と深地さん



長尾徹研究室が深地宏昌さん(デザイン・大阪府出身)と共同提案した「数字になるチョコレート」が、グランプリ・準グランプリに次ぐ優秀賞(1点)に選ばれた。授賞式は10月14日、東京ミッドタウン

で、小田裕和さん(工学専攻博士後期課程1年)

のプラザB1特設会場で行われた。作品は、並び替えて好きな数字をデジタル数字風に作れるチョコレート。誕生日や記念日に、チョコ数字を可愛く添えられるように、と考えた。

共同制作した深地さんとは昨年、Maker Faire Tokyo(テクノロジー祭)で知り合い別のコンペでそれぞれ受賞したことがきっかけとなった。デザインは3Dプリンターで出力、食用シリコン

で型を取った。千葉と京都間をオンラインでやりとりし、面倒も多かったが、うまくマネジメントできた、と振り返る。コンペでは5人の著名デザイナーらがVデザイン力V提案(プレゼンテ

ーション)カテゴリーの理解力V消費者ニーズの理解力V商品化の可能性などを審査。1次、2次と作品を絞って受賞8作品を選んだ。小田さんは「応募1249点の中から選んでい

安生、藤沼、香取さん 建築3人チーム「銀賞」

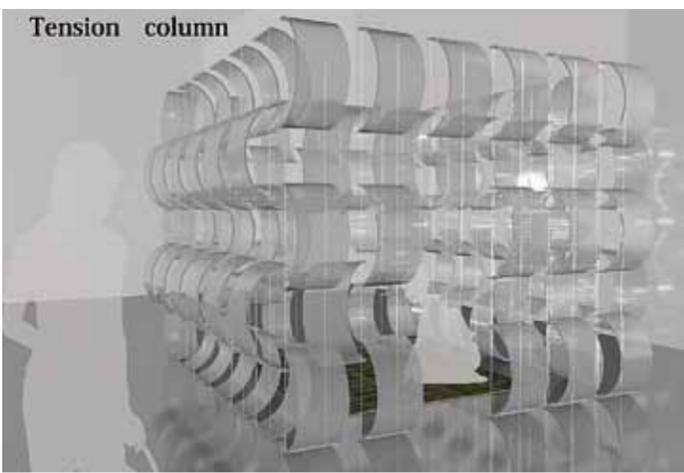
▼「銀茶会の茶席」コンペ

日本建築学会が学生に創作茶席を募集した「銀茶会の茶席」で、本学の安生仁さん(建築都市環境学専攻修士2年)、多田修二(研究室)、藤沼悠生さん(同1年)同、香取佑弥さん(建築都市

環境学科4年)同)ら3人チームの作品が銀賞を受賞した。10月2日、建築会館(東京都港区芝)イベント広場で開かれた2次審査で選ばれ、表彰された。



受賞した安生さん(前列右端)、香取さん(後列左から2人目)、藤沼さん(同3人目)。下はその作品(説明パネルから)



「銀茶会」銀座通り周辺に年一回、茶席を設け、表千家、裏千家、武者小路千家など六流派が参加する野点の大茶会。銀座の店舗・企業が集まる銀座座の依頼で、建築学会が2009年から学生たちに創作茶席を募集、金賞作品は銀座三越で展示され、大茶会の茶席に使われる。

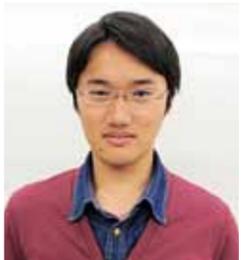
次審査では説明パネルに加え10分の1模型、2次審査では実物大模型を作り、審査員の建築家・茶人たちが前にプレゼンテーション。構造と新しい空間が評価されたが、わずかに金賞に及ばなかった。

安生さんは「著名な建築・構造家や茶人から高く評価され、貴重な意見を頂くことができて、よい経験になりました。先生方や、模型作りに協力してくれた後輩たち、研究室仲間のおかげだと思います」と感謝した。

ロボ相撲 全国大会へ

▼石川さん 東北大会で優勝

第28回全日本ロボット相撲東北大会(10月23日、秋田県立横手清陵学院高で開催)富士ソフト(株)主催の「全日本の部」ラジコン型で石川英丈さん(未来ロボティクス学科3年)が優勝して「東北横綱」になり、12月18日に東京・両国国技館で開かれる全国大会への出場権を獲得した。

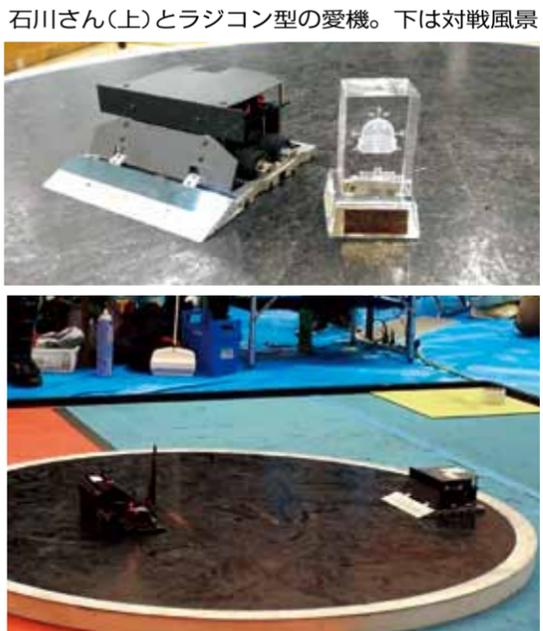


東北大会には約1000台のロボットが参加。石川さんはトーナメントで5回勝ち(優勝を決めた)。ロボット相撲は直径154mmの鉄板製土俵で対戦、相手を土俵外に押し出す。鉄板土俵に張り付

くよう磁石を多用するが、ただ磁力を強くしても勝負強くないという。石川さんは今回、磁石の吸着性を保護する機構を搭載し、技術十戦術のアイデア勝負といわれる同大会を制した。

制限重量内で多機能を持たせようと、部品は軽量で複雑な形状になりがちだ。石川さんは、最先端の工作機械約50台が並ぶ工作センター(津田沼校舎4号館)で、ワイヤ放電加工機やウォータージェット切断機を使い部品を加工、これが優勝に大きくつながったという。

石川さんは「高校(香川県)の頃からこの競技に参加し、機体の設計、プログラム調整などで試行錯誤を重ねてきました。今回その成果を東北大会優勝という形で得られ非常にうれしい。これから知識や技術を磨き、ロボット研究に役立てたいと思います」と語った。



石川さん(上)とラジコン型の愛機。下は対戦風景

渡辺さん 学生発表賞

▼リフォーム研究 インテリア学会で

日本インテリア学会の第28回大会(10月22、23日、名古屋工業大で開



渡辺ひかりさん(デザイン学科4年)白石光昭研究室・写真)が「マンションリフォームの現状から見た間取りの変化」を口頭発表し、学生発表賞2組の1つに選ばれた。

白石研では、製品や空間の使いやすさ、心地よさなどを人間工学・感性工学から研究・提案している。渡辺さんは、マンションが実際にどのようにリフォームされているかを調べる現状を知ろうと求めた。その結果、キッチンを対面式や島型にするなど、リビングダイニングとキッチンのつながりを重視した間取りを望む人々の増加が裏付けられた。

「初めての学会発表で緊張しましたが、形に残る結果となり、とてもうれしかったです。このテーマを卒業研究としても続けていくつもりなので、更に精進したい」と渡辺さんは語った。

aba 3賞に輝く

▶ 排泄検知シート「Lifi」で



「Lifi」写真上 寝たきり被介護者のオムツ交換について、介護者は排泄タイミングが分からないため排泄の有無にかかわらず定時交換で対応。2割は空振り交換と調査され、時間ロスが介護者に負担となっている。Lifiは、臭いや気体中の成分変化に反応する安価なセンサーを活用、独自のアルゴリズムで排泄の有無を検知し、介護者にタブレットなどで通知する。実証テストで成果が確認され、「東京LAB PAK第6期」TechCrunch Japan 賞を受賞。当時の名称「Lifi」を「Lifi」と改名して現在、提携関係にあるパラマウントベッド(株)と量産へ向け協議しており、来春にも本格販売できる見込み。

賞のトリプル受賞に輝いた。各コンテストはいずれも技術シーズのビジネス化を応援するもの。プレゼンテーションでは宇井代表が説明、ディープテックグランプリでは秋庭裕さん(未来ロボティクス学科4年)大川茂樹研究室・同左 が説明に加わった。

「Lifi」の開発について、Tech Lab PAKは「臨床実験を重ねて、着実に前進している」、JT賞は「介護現場を丁寧に調査し、技術視点だけではたどり着けない課題解決策にたどり着いているビジョン」、サントリー賞は「現場に真摯に向き合っている」と評価した。

宇井さんは「介護現場での実験が大変だった。Lifiは夜間帯も使用するので、泊まり込みの実験が本当に大変だった」と

と振り返り、「そのおかげで少しずつデータ回収が出来るようになり、研究開発も前に進んだ」と語った。

産経新聞社協力)に参加した金子幸平さん(経営情報科学科3年・写真)が、9月24日の修了式でシルバークライニング賞に選ばれ、表彰された。秀實社はコンサルティング会社で、One-Wellは3カ月間の無料塾。約3〜7時間の研修を9回前後受ける。

「未来創生新聞」にまとめた。修了式では選ばれた学生が未来創生新聞を発表。その内容や成長ぶりから6賞8人が選ばれた。

金子さん養成塾で受賞

▼「働く意味」学んだ3カ月



就活学生のための「次代人財養成塾One-Well(ワンウィル)」第6期(7月2日〜9月3日、東京・銀座の(株)秀實社などで研修)秀實社主催、

金子さんは受賞を「3カ月の短期間で積極的に学べるものを学ぼうとしたからだと思います。志の高い学生や企業人と出会って、思考や行動が変化し、社会へ出る期待や自信を持てるようになりました」と語った。

中静教授に貢献賞

▼ 本学で開いた国際会議を運営

電子情報通信学会のソサイエティ大会(9月20〜23日、北海道札幌市の北海道大で開催)で、本

学情報通信システム工学科の中静真教授(写真)が、基礎・境界ソサイエティ分野の貢献賞(国際会議を贈られた。

中静教授は、通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ



エティ分野の貢献賞(国際会議を贈られた。

中静教授は、通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ

中静教授は、通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ

中静教授は、通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ

学位取得

東京工業大博士号(工学)9月20日

入江清・未来ロボット技術研究センター(fu-robot)主任研究員

▽学位論文「Mobile Robot Navigation Using Statistical Dependence (統計的依存性を利用した移動ロボットのナビゲーション)」

入江主任研究員は、移動ロボットや自動運転車が地図の準備なしで自律



菅助教(奥)と(前列左から)鈴木さん、柏原さん、篠村さん。右は開発した高温耐久メモリー

世界初 600度超で記録動作

▼ 菅研究室 高温耐久メモリーを開発

千葉工大と国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)、物質・材料研究機構(物材機構)は10月11日、セ氏600度でも動作する不揮発性記憶素子(電源を切っても記録情報が失われないメモリー)の開発に世界で初めて成功したと発表した。

菅助教(奥)と(前列左から)鈴木さん、柏原さん、篠村さん。右は開発した高温耐久メモリー

通常の半導体メモリーは高温で固体内の電子伝導を制御できなくなるため、200度程度で情報書き込みも保持もできなくなる。菅研の新技术はナノメートルの隙間(ナノギャップ)に起こる量子効果で電子伝導を制御するため、非常に高い温度でも動作する。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノより小さい領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組みたい」と話している。

この技術はフライトレコーダー、惑星探査機などで高熱下でデータ保護が必要場面への応用が期待される。また、データセンターでデータ保護のために消費される冷却エネルギーを大幅に削減できることから、省エネ社会に貢献すると期待される。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノより小さい領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組みたい」と話している。

「技術と人材育てるロボカップ」

▼ 未ロボ・林原教授 ユニバーサル未来社会へ向け講演

本学未来ロボット技術研究センター(fuRo)と文部科学省が共同で事務局を務める「ユニバーサル未来社会推進協議会」のワークショップが10月21日、東京ビッグサイトで開催され、未来ロボットで開かれ、未来ロボット工学の林原靖男教授が来年7月に名古屋市で開かれるロボカップ世界大会に向けて、ロボカップの意義と本学の取り組みなどを語った写真。



発信しようという国家プロジェクトを推進している。一方「2050年にサッカーの世界チャンピオンに勝てる自律型ロボットのチームを作る」という目標を掲げるロボカップの第1回世界大会は、1997年に名古屋市で開催された。21回目となる2017年名古屋大会は2020年に最先端ロボットが活躍するユニバーサル未来社会の姿を

ク開催に併せて、先端ロボット技術を使った夢の未来社会の「実証フィールド」を各地に造り、シヨケース化して世界に

して見せようというプロジェクトの「ブレイベン」としての意味も持つ。ワークショップでは司会を務めた文科省の渡辺その子科学技術・学術政策局研究開発基盤課長が「千葉工大はロボカップの大変な強豪校」と紹介。林原教授は、本学が2006年に未来ロボティクス学科のチーム「RoboCup」を作った07年のロボカップ世界大会に初挑戦してからの足跡をたどりながら、2014年に「苦節9年目」で、ヒューマンノイド・サッカーロボットの最高の栄誉「ベストヒューマンノイド」を獲得したこと。ロボカップは社会の変革を

進めるキーテクノロジーの開発と、そのキーテクノロジーを扱える人材を育てるという面でも非常に役に立っていると、参加者に熱く語りかけた。

なお、「ジャパンロボットウィーク2016」に出展された「ユニバーサル未来社会推進協議会」のブースでは、未来ロボティクス学科米田研

究室の奈良林大輝さん(3年)、伊東稔明さん(4年)、花田百優さん(2年)が説明員を務めていた。

組が研究成果を展示した。雨天にもかかわらず会場には約8500人が訪れた。

し、硬度分析を演じた。環境科学研は、継続調査している印旛沼の水環境健全性指標や水質調査による環境評価について展示、説明した。

「ナー」を提供した。★CIITものづくり 廃棄食品由来の学内燃料生成プロジェクトの学食から廃棄された廃食用油から製造したせっけんを原料に、参加者の好みの香りを付けた透明せっけんづくりワークショップを開催。子どもも含めた参加者と廃食用油のリサイクルを実感した。

本学6組が「環境」出展

▼「エコメッセ2016 in ちば」



① 県内の河川環境を説明(村上研) ② フィールド活動を展示(五明研)



県内で最大級の環境イベント「エコメッセ2016 in ちば」が9月22日、葛張メッセ国際展示場で開かれた。今年のテーマは「見つけよう私のCOOL CHOICE」。産官学・市民の約100団体が出展。本学からは生命科学・環境科学科生物圏環境研究室(村上和仁教授)

★CIITものづくり 廃棄食品由来の学内燃料生成プロジェクトの学食から廃棄された廃食用油から製造したせっけんを原料に、参加者の好みの香りを付けた透明せっけんづくりワークショップを開催。子どもも含めた参加者と廃食用油のリサイクルを実感した。

人工知能 細かな動作認識へ

▼ STAIR Lab が開発に挑戦



10万本の動画を深層学習させることによって人の多様な動作を高精度に認識させることまでになり技術の開発に、本学人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR Lab)が挑んでいる。その概要が10月5、6日に葛張メッセで開かれた新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の展示会でポスター発表された写真。

このDNN開発をさらに進めて、▽短い動画を捉えて、それを言語化(文章化)する▽長い動画を捉えて、その中に含まれる出来事についての質問に回答する段階へとDNNモデルを進化させる。

「水を飲む」「抱き合う」などの日常的な人の動作100種類を認識することを目標としている。このために1つの動作ごとに1千本、計10万本の動画学習セットを作成し、これらの動作を認識する深層ニューラルネットワーク(DNN)を開発する。

「環境科学研究会」(代表・村上教授)▽同社会圏環境研究室(五明美智男教授)▽化学第4実験研究室(谷合哲行准



新習志野キャンパスの図書館前で先生方がミニ講義する「シンナライブ」が好評だ。図書館事務課が教員と「協働」して昨年始めたもので、昼休みの30分間、普段の授業では聞けない先生方の「取って置き」講義を、聴ける。

11月14日には、東條晃次・教育センター教授の「等質空間」行列を使って球面を表現してみよう、12月1日には東山幸司・同准教授の「原子核物理学でせまるニュートリノの秘密」と、魅力あふれる講義が続く。

好調「シンナライブ」

▼ 魅力あふれるミニ講義



図書館前で先生方がミニ講義する「シンナライブ」が好評だ。図書館事務課が教員と「協働」して昨年始めたもので、昼休みの30分間、普段の授業では聞けない先生方の「取って置き」講義を、聴ける。

11月14日には、東條晃次・教育センター教授の「等質空間」行列を使って球面を表現してみよう、12月1日には東山幸司・同准教授の「原子核物理学でせまるニュートリノの秘密」と、魅力あふれる講義が続く。

スポフェス熱戦！

▼ 新体育館で球技、ゲーム



フットサル男女の熱戦



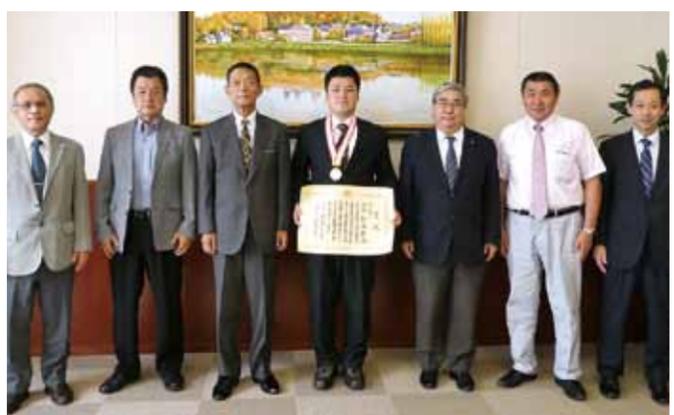
バドミントン、バスケットボール



釣りゲームやスタッキング



変更が増え、企画・実施の関係者は一層、運営に力を入れることができた。



全国空手覇者 根本敬介さん来校

▼ 理事長、学長らに成績報告

第59回内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会（9月25日、幕張メッセ・イベントホールで開催）の一般男子個人戦・組手で優勝し内閣総理大臣杯を獲得した本学卒業生・根本敬介さん（写真中央）が10月4日、津田沼校舎を来訪、瀬戸熊修理理事長、小宮一仁学長に成績を報告した。根本さんはプロジェクトマネージャ（PM）学科に在籍し、体育会空手道部に所属。数々の大会で好成績を残し、平成14年に卒業した。その後、22年の第53回同大会で内閣総理大臣杯に輝き、以来55、56、58、今回59回と5回優勝（57回は準優勝）を重ねている。今回同種目3位の岡田泰典さんも本学の卒業生（21年・機械サイエンス学科卒）だ。

寮大会も接戦

▼ 秋のスポーツ大会に各階チーム



テニスに、バスケットボールに



元気の楳寮の寮生たち

第50回スポーツフェスティバル（実行委員会・安藤一輝委員長・生命環境科学科3年II主催）は10月12日、茜浜運動施設と新習志野キャンパスで開かれた。さわやかな秋晴れのもと参加者は約3500人。学生・教職員たちは日ごろの運動不足を解消しようと、いい汗を流した。

種目はバスケットボールのほか、フットサル、バドミントン、硬式テニスなど球技が中心。しかしミニゲームでは「釣り」「スポーツスタッキング」「ウォーターコイン」「おせんべい、焼けたかな？」などユニークな競技が用意され、真剣勝負ながら笑顔の絶えない熱戦が繰り広げられた。

フットサルコートに人工芝が張られ、新築の体育館では天候を気にせず競技が可能に。喜ばしい

安藤実行委員長は「変更が多かったが、協力して無事に終わらせる

学生寮・秋のスポーツ大会が10月23日（日）、寮隣接コートや新体育館で開かれた。寮生の交流の輪を広げようと寮長の加藤大晴さん（電気電子情報工学科3年II）らが企画したもので、夏の大運動会とは一味違った競技内容。

種目はバドミントン、テニス、サッカー、バスケットボール、ドッジボール、ソフトボール。接戦が続く、会場は声援で沸きあがった。

寮の運動会は、階ごとチームを組む。異なる学年間の交流を促すため、これによって各フロアの団結力も増している。

競技を終えた寮生たちは「高校の球技大会を思い出した」「負けただけで楽しめました」「対戦相手と、またテニスをすることに楽しみを感じた」と感想を述べていた。

発見！ 未来人

株式会社第一エレクトロニクス 技術開発部

藤本 正雄さん

2000年、大学院電子工学専攻修了



技術開発部で藤本さん

や制御機器に使用される製品個別のパソコン用ソフトウェアの設計開発を担当。製品仕様の作成からプログラムのデバッグに至るまでの一連の設計業務を行っています。当社ではまだ確立されていない分野で、ハードルも多いが、その分やりがいがあります。

当社は1人1人に任せる風土があり、若手も比較的さまざまな仕事を任せてもらえます。千葉工大のOBも多く、上司との風通しもよいので、仕事で困ったことやトラブルが起きた場合でも相談しやすい環境です。

在学中は、平面型送受波器アレーを用いた砂中水分率の測定に関する研究に取り組みました。超音波パルス反射法とニューラルネットワーク情報処理を併用し、静止砂面中の水分率を認識させる方法の考案です。

大学の親善交流団の一員として中国に行き、哈爾濱工業大学の学生と交流したことが強く印象に残っています。先方の学生たちの多くが日本語を話せることに驚きました。北京や上海、西安にも行きましたが、特に万里の長城からの壮大な景色や故宮の想像を超える広さに、広大な国土面積を誇る中国を実感しました。

現在は、主に当社のデジタル計測器

事業内容	電気計測技術をベースに、アナログからデジタルまで、計測から制御、保護まで、そして表示から伝送、通信までと展開しつつ、さらなる市場のニーズに応えるべく、心のこもった製品をお届けしています。
所在地	〒121-8639 東京都足立区一ツ家1-11-13

全17学科がミニ講義

10月オープンキャンパス

秋晴れの10月23日、模擬授業を中心としたオープンキャンパスが津田沼校舎で開かれ、受験生・父母ら1572人が来場した。

今回のオープンキャンパスは、本学教員によるミニ講義を開催。全17学科、計34コマのユニークな講座で、学びの中から学科の特徴をつかんでもらおうというもの。受験生に限らず高校1、2年生や保護者たちも受講し、入試説明会や推薦入試説明会&対策講座、ワークシートやコンピュータ演習室での体験講習、キャンパス内を効率よく案内するキャンパスツアーも開催。携わった学生たちの対応ぶりに好感が持たれ、という感想が多く寄せられた。

7月に注目を浴びた



全体説明会



学科のミニ講義風景



「千葉工大生が選ぶCITスポット」



キャンパスツアーで道順などを説明

クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
フォークソング研究会	10/16	工大企画
フィッシャークラブ	10/2、11、12、22、23	2016年度全日本学生釣魚連盟関東支部へら鮎釣り大会、磯&船釣り、新三役就任釣行
陶芸研究会	10/15	七輪陶芸
天文研究部	10/18、25	天体観測
電気研究部	10/8、9、16	第37回全市全郡コンテンツ、第31回オール千葉コンテスト
鉄道倶楽部	10/9、15、16、22、23	国府台自動車学校出張運転、真砂コミュニティふれあいまつり 出張運転、千葉トヨペット60周年イベント
ソフトメディア研究会	10/22、23、30	千葉トヨペット60周年イベント、M3音系・メディアミックス同人即売会
総合工学研究会	10/23、11/5、6	ロボット操作体験、ROBOT GENERATION、理工展 ロボット大会
写真部	10/5~16	新人展
茶道部	10/8、9、16、23	工大祭茶会、もみじ茶会、和洋茶会、神無月茶会、茶会、櫻門茶会、六十周年記念茶会、定例茶会、芝草慶茶会
航空工学研究会	10/22	交流会
機械工学研究会	10/23	元ピックミニバイクレース 第4戦 コース1000
環境科学研究会	10/23	水環境調査

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的にいろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。



在学生に聞いてみようコーナー



④親子が学食で ⑤推薦入試説明会



「千葉工大生が選ぶCITスポット」は展示ブースを設け、内容をバージョンアップ。新習志野キャンパスや津田沼キャンパス、茜浜運動場など構内おすすすめスポットを写真で紹介した。

7号館の1フロアにはクラブ・サークル、チバテック、学食ランチメニューなどのコーナーや展示物が所狭しと飾り付けられた。来場者は「学生たちが楽しそう」「他のキャンパスの様子もわかってうれしい」など、たくさん感想を寄せた。

12月には今年最後のキャンパス見学DAY&クリスマス・イルミネーションイベントが予定されている。

編集だより



前々から気になっていたふるさと納税。なかなか挑戦するには至らなかったものの、「美味しいもの食べられて、しかもお得ですよ!」と、同僚からの一言が決めとなり、食いしん坊の私は、今年ふるさと納税デビューすることになった。

ふるさと納税とは、好きな地域(都道府県・市区町村)への寄附のこと。寄附をすると、税金が控除されたり、寄附金の使い道を指定して地域を応援できたり、さらには寄附した地域からお礼の品として美味しいお肉やお魚などがもらえる。しかも寄附の仕方は通販などと一緒に簡単だ。定期的なこともあり、今年度は栃木県と千葉県(地元)のみに納税は留ま

四季雑感



最近になって、夜空を仰ぎ見る機会が多くなった。というのも今年の夏に御宿研修センターで行った、公開講座「星空教室」で夜空にひろがる星座を覗いて、感動したからだ。

普段、街の中で夜空を見上げて、街頭の明かりが邪魔する。土星も観ることができた。

ふるさと納税とは、好きな地域(都道府県・市区町村)への寄附のこと。寄附をすると、税金が控除されたり、寄附金の使い道を指定して地域を応援できたり、さらには寄附した地域からお礼の品として美味しいお肉やお魚などがもらえる。しかも寄附の仕方は通販などと一緒に簡単だ。定期的なこともあり、今年度は栃木県と千葉県(地元)のみに納税は留ま

同窓会



新米の季節になり、店頭には日本全国のお米が並びます。千葉県は関東一の早場米の産地で、良質なコシヒカリが生産されています。

昨年4月からはいすみ市において学生たちと水田をはじめました。耕作放棄地を土づくりからはじめ、無農薬・無肥料で

夏に限らず、これからの冬の季節には空気が澄むことも多く、星が奇麗に見える機会が増える。昔、小学校で習った星座の名前を思い出しながら星を眺めるのもいいのだ。

皆さんも、ぜひ夜空を眺めて自然の美しい星を覗いてください。きっといいことがあると思います。

産官学融合課 富内 直樹

森林からの物質供給のみで米作りに励んでいきます。稲穂の頭が垂れ、いよいよ収穫の時!!イノシシにやられ、全滅しました。学生たちは痛感しました。自然との共存共栄の厳しさを、でもきっと大切なことを学び、大きく成長したと思います。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」

応用化学科 矢沢 勇樹